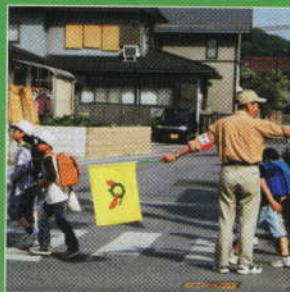


彦根のスクールガード

地域で守ろう！子どもたちの笑顔



近年、全国で児童や生徒たちの安全がおびやかされる事件が相次いでいる。彦根市では平成17年度から地域ぐるみで子どもたちの安全を守ろうと、スクールガードの登録が始まった。

地域と学校が手を取り合って子どもたちを守る

平成21年度、彦根市内におけるスクールガードの登録者は1603名。市内17小学校区すべてに存在し、その多くはシルバー世代。万が1のため傷害保険に加入しているが、全員ボランティア。「自分たちが住んでいる地域の学校と、そこに通う子どもたちを守るために、お手伝いできることがあれば……」と、自主

的に活動している。

「学校管理下における不審者の校舎内への侵入や、校舎の破損などが大きな社会問題になったのは記憶にも新しく、こうした問題に対して学校の職員だけでは対応しきれない面もあり、地域の方々の協力は心強い限り。今後も連携を密にしながら子どもたちの安全

SCHOOL GUARD IN HIKONE

ゼロからつくり上げた住民の輪 地域コミュニティの確立が犯罪を防ぐ

金城学区は彦根最大の新興住宅街。現在4・300世帯が居住し、人口は約1万2千人。これは市全体の人口のほぼ十分の一だ。

今から14、5年前、同学区で子どもたちが大切に育てていた植木鉢が、一晩に約800個も壊されるという事件が起こった。ほぼ同



会長:伊富貴和雄さん
中地区交流の館運営協議会会長。中地区公民館館長。パワフルで気さくな人柄に自然と人が吸い寄せられ、地域の輪(和)ができる。

健やか金城の会(金城学区)

地域の子どもは孫のようなもの 健康でいつまでも活動を続けたい

「大沢子供見守り隊」が結成されたのは平成18年5月。「テレビや新聞で、子どもたちが痛ましい事件に遭遇するのを見聞きし、「地域の子どもは地域で守ろう」と思ったのがきっかけです」発足当初は40名ほどだったが、現在は50名ほどが活動中。

次で紹介する「健やか金城の会」と「大沢子供見守り隊」は、市内でも特に活動の盛んな団体として知られている。

を守り、心身ともに健やかな育成に努めていきたいと思っています」と、教育委員会の担当者

SCHOOL GUARD IN HIKONE



集団登校旗

地域の情報を発信している「中地区公民館」発行の「みなくーる」。この号では「金城見廻り隊」「大沢子供見守り隊」を紹介している。



代表:小野忠夫さん
現在、平田学区町内会連合会会長。奥さまも「大沢子供見守り隊」のメンバーとして活躍中。

大沢子供見守り隊(平田学区)

時期、団地内を中心に100本以上の街灯がエアガンで破壊された。これらはテレビや新聞で全国に報道され、住民たちは大変なショックを受けた。

「行政に頼るばかりでなく、とにかく地域がなんとかせなあかんと思ひ、志を同じくする仲間たち4、5人で『健やか金城の会』を立ち上げました」と、伊富貴和雄さんは「健やか金城の会」の組織図を見せてくれた。「健やか金城の会」(青少年育成協議会)を頂点に、交通安全・防犯・防災・青少年活動を三本柱として、その下に金城学区連合自治会など主だった団体がずらりと並ぶ。

「『健やか金城の会』を立ち上げる以前は、連合自治会すらありませんでした。まさにゼロからのスタートだったのです」

「健やか金城の会」では、市がスクールガードの登録を呼びかける以前に、全戸にビラを配って見守り活動のメンバーを募集。強制加

入は不本意だったので、各種団体には一切要請しなかつた。そうしてできたのが「金城見廻り隊」だ。「54名でスタートしましたが、現在は130名。中には登下校合

わせて1日4回立たれる方もあります」

また、平成18年5月には「青色パトロール」が発足。現在青パト7台、隊員32名で活動しており、年間325回のパトロールを行っている。ちなみに青パトはすべて個人所有で、ボランティアだ。このほか、防犯見廻り隊員と一緒に活動する見廻り犬も3匹登録。

最近隣接する平田学区と協力。活動の拠点を中地区公民館(指定管理者制度で運営)におき、中央中学校区として地域の安全を守っている。

左:飼主と一緒に子どもたちを見守る防犯見廻り犬
左下:学区内を巡回する青パト
下:地域の安全を守る青パト隊員



平田小学校区周辺は、昔は二面の湿地帯。現在は「バルロード」が通るにぎやかな繁華街。一歩中に入れば閑静な住宅街だが、昼間でも人通りが少なく、空き巣の被害に遭う心配も。「見守り隊」は子どもたちが犯罪や事故に遭うのを防ぐだけでなく、地域の防犯にも役だっています」と、小野さん。また、人と人が出会う場所として、新たな地域のコミュニティづくりにも役買っている。

「大沢子供見守り隊」の活動は下校時が中心。通学ルートに沿って設置された各ポイントに、下校時刻を見計らって立ったり、通学ルートを散歩したり、家の前で掃除をしたりと、基本的にスタイルは自由。「強制は誰もがいや。それよりもできる事で参加するほうが長続きする」

「見守り隊」では、年に3回ほど会議を兼ねた食事会を開催。これには子ども会の役員や小学校の校長、教頭先生も参加し、互いに

コミュニケーションを取りながら、意思の疎通を図っている。

「やんちゃな子には注意するので、中には私たちが煙たがる子も……でも、それは地域の

大人として、子どもたちにもっと早くに育ってほしいから。鞆に家の鍵をぶら下げて帰ってくる子には、不用心なので鍵を見せないように注意しています。地域の子どもは私たちの孫のようなもので、「見守り隊」は生きがい。「無理せずお互い元気でやろうや」というのが合言葉。来年は5周年なので、何か行事をやりたいですね」と、小野さんは今後の抱負を語ってくれた。

「何年生になった?」「〇年!」見守り隊員に元気よく答える子どもたち。保護者から感謝の言葉も。雨の日も風の日も隊員の活動は続く

